ちいきのなかま通信

No.56

発行日：平成29年11月8日
発行者：特定非営利活動法人
ちいきのなかま

子どもの貧困と向き合う…ということ

「ばっちゃん」 ～子どもたちが立ち直る居場所～（NHKスペシャル）を観ました。

以下ＮＨＫスペシャルHPより抜粋

「去年、刑法犯罪で検挙された少年・少女は３万８９２１人。このうち再犯者の割合は３６．４％と１８年連続で増え、過去最高を記録した。（中略）つまずいた子ども達を支え、見守り、立ち直らせる社会の力は、以前にも増して脆弱になっている。こうした中、そんな子ども達に寄り添い、その立ち直りを支えてきた女性が広島にいる。“ばっちゃん”こと、元保護司の中本忠子（チカコ）さん８２歳。６年前に保護司を引退した後も、自宅を開放し、親身になって相談にのっている。集まってくるのは、貧しさのあまり家で食事をとれない少年や、母親から虐待され続ける少女など様々。直面する問題は、現代社会が抱えるゆがみやひずみそのものだが、どんな絶望的な状況にある子ども達も、中本さんと触れあううちになぜか立ち直りの機会を見いだしていく。番組では、子ども達が中本さんとの交流を通して人生を取り戻していく過程をドキュメントする。」

番組の中でばっちゃんこと中本さんは、「ひもじさ」「まずしさ」が子どもが犯罪を犯すきっかけであること。そして居場所がないこと、向き合ってくれる大人がいないことが事態を悪化させると話しています。家に食べるものがないから万引きをしてしまう。帰る場所がない、向き合う大人がいない。自分の家庭しか知らない子どもたちは、自分が置かれている不遇さに気づくことができない。ただ生きるために犯罪を繰り返す。番組の中で、中本さんは子どもたちに食事をだしながら、状況を聞き取ったり、力になれそうなことを提案する。実際に救済に動く。まさに向き合ってくれる頼りになる存在です。番組の最後にひとりの少年が「ばっちゃんに心配かけられない」と更生の意思を言葉にしました。きちんと生きてと願うばかり。

80歳になるひとりの女性の存在が、多くの子どもを支えてきたし、今も支えている。私たちにも何かができないか。昨年から長崎県内各所で取り組みが始まった「こども食堂」は、大人が子どもに向き合うきっかけとして、有効な方法だと思います。12月3日「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー」が長崎市で開催されます。

ボランティア活動は、始めるのは簡単ですが、継続はとても難しいです。

だからこそ、きちんと学ぶ機会を持つことがとても大事だと思っています。

きょうだい支援の会でのおはなし　ダイジェスト

話し手：Yさん（佐世保市出身・関西在住）

私は今36歳です。兄（39歳）、妹（34歳）が障がい者です。二人とも重度の知的障害で手帳はA1を持っています。私は児童発達支援センターで保育士として働いています。職業の選択には兄と妹の存在が影響しています。兄と妹に関わる福祉や保育関係の大人の人たちが、幼い頃の私を大事にしてくれました。そのことが嬉しくて、自分もそのような仕事がしたいと思っていました。

幼児期、思春期、成人期

ごく幼い時から、障がい児のきょうだいの間に挟まれて育っていて、それが当たり前だと思っていました。近所の方も偏見などなく、つらい思いをしたことはありませんでした。近所の子は、小さい頃から知り合いでごく自然に遊びに来てくれていました。

「あれ？違うのかな」と感じ始めたのは小学校に入った頃でした。その頃は、きょうだいゲンカがしたいと思っていました。でも、言っても伝わらないし、喧嘩をしかけると逆に大変なことになる。家の中は2人の行動で大変な状況でした。そして兄も妹も早くに施設に入りました。2週間おきの週末、長期休暇，2人の帰省日、母は大変でした。私は幼い時から親を支えないと、と思っていたし、していたと思います。葛藤はありました。子ども時代から手放しでhappyということではありませんでした。私は生涯、結婚しないと決めて進路を選択。家族の事を思い大学も決めました。結婚を決めて佐世保を離れる時には悩みました。責任感がありました。優先順位の第一は家族で、自分ではなかったと思います。

「孤独感・罪悪感」

私は、勝手に孤独を感じ、罪悪感もありました。学生時代、入所施設に実習に行って施設を体験した時に罪悪感を感じました。施設の暮らしは制限が多く選択肢が少ない。でも私は自由です。自分だけが幸せであると感じると兄や妹はどうか…と考えてしまう。また、両親から、あなたは自由で好きなことをしていいと言われると「孤独」を感じ、もう少し干渉してほしいと思いました。それは子どもの頃からの積み重なった思いだと思います。

親に望むこと

両親とは、これからのことをもっと話さなくてはと思っています。あなたは何もしなくていいと言われますが、そう言われても心配です。むしろ、きちんと情報をもらいたいと思っています。私が子育て中でもあり、帰省の時にも、しばらくきょうだい同士で会えていません。今、なにかの折にお世話ができるかというと自信がない。たまに会うことがあっても、今だと兄や妹がストレスを感じるのかもしれません。離れている期間が長いと、わかってあげられない。お互い、小さな生活習慣も知らないとお世話ができないのだと思います。

（10月21日開催）

「きょうだい支援の会」はお話の内容は本来公開しません。この数回、みなさんに「きょうだい」の気持ちをお伝えするため特別に公開しています。

アメリカの調査ですが、将来の計画について78％の親がきょうだいと話し合ったと言い、きょうだいに聞くと64％が親のプランを知らないと回答したそうです。

新企画！イラストでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」

ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

子育ての　こ～んなかんじ

by 蓮すけ

楽しんでくれるかな♪と親子のイベントに参加すると、子どもはママにべったり、顔も上げなかったり、泣き叫んだり…

「せっかく来たのに」や「周りの人に迷惑かも」と、お子さんが人見知りだとめげそうになってしまうママも多いのではないでしょうか？過去の私もそのひとり。

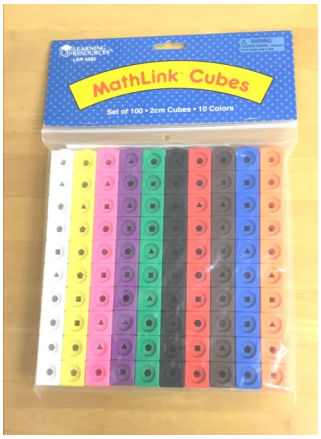
それでも、続けて参加して人と「触れ合う」機会を作っていくと我が子も思った以上に、たくましく人の中に入って行けるようになりました。子どもは人見知りしながらいろいろと吸収しているのですね。

家族の人数が少ない昨今、人と「触れ合う」機会は意識して作らないといけないなと感じています。これからは、人見知りしても「大丈夫よ」をたくさん伝えていきたいです。

スタッフY

おもちゃ図書館の新しいおもちゃのご紹介

おもちゃ図書館では新しいおもちゃが仲間入り。おもちゃコーディネーターの“ぶほさん”セレクトで、大人も子どもも楽しくなるアナログゲームも徐々に増やしていく予定です。お手伝いの顔ぶれも増えて、楽しい遊びを展開しています。



“ぶほさん”こと佐藤美和さんご紹介

子どもと育ち研究所認定おもちゃコーディネーター、NPO法人日本グット・トイ委員会おもちゃインストラクター。「あそぶよむつくる　ぶほ」サークルを立ち上げ乳幼児から小中学生までの“あそぶ”を大切にしたイベントを各地で開催。子どもも大人も楽しく遊ぶのが一番！！！とおもちゃ、アナログゲーム、けん玉などなど、遊びの幅を拡大しつつ、仲間を増やしながら活動を展開中です。今、アナログゲームサポーター養成講座が大好評で開催中！

おもちゃ図書館ちいきのなかまは、平成25年に活動を始めました。佐世保では、もともと昭和60年から「おもちゃ図書館くりの木」という団体がありました。佐世保市福祉会館〈八幡町〉を拠点に障害のある子もない子も一緒に遊ぼう！という主旨で、おもちゃ遊び、キャンプ、イベントなどを展開していました。佐世保市に子ども発達センターや遊び場が設置される中で、一旦役割を終えて閉館したのでした。

現在ボランティアのタナカくんは初期の利用者さんで、あの頃は幼い男の子でした。

おもちゃ図書館活動を再開したのには、いくつかの理由があります。ひとつは多様な人たちの居場所を作りたかった。いざ始めようとしたら、おもちゃを運んだり整理するときにお手伝いの人が必要で、タナカくんに頼んでみたら手伝ってくれました。彼は発達障がいの人で、それゆえか記憶力は確か。細かいおもちゃの整理は任せても大丈夫です。力持ちでもありました。コミュニケーション力は私がカバー。そんなつもりでスタートしました。

始めてみると私たち2人、長い付き合いだけど、お互いに理解や調整が必要な場面がたくさんありました。でもタナカくんよく付き合ってくれました。最近はお手伝いの顔ぶれが増えました。「遊び」を深める方向も大事にできるようになりました。まだまだ進化しそうです。

おもちゃ図書館は、おもちゃが一番。さらに、人と人の出会いがあります。遊びのシメの紙芝居は今もタナカくんの担当。伝えたい気持ちいっぱいのタナカくんの読み聞かせ、受けとめてくれる子どもたち。独特なコミュニケーションも楽しめる場になりつつあるのかな…。

みんなの実家プロジェクト始動しています！

ウドハウスでの実験から早くも2年が過ぎようとしています。みんなの居場所は必要ですが、そこの維持は本当に大変です。私自身はほかの団体で「宅老所」、ちいきのなかまで「ウドハウス」と2回の居場所づくりをして、結果維持できなかったという点で2回の失敗を体験してきました。2回とも補助金でスタート。やりくりしてみるけれど、金銭的に続かなかった。

来年度に向けて作っていく「みんなの実家」も家を借りる予定。補助金ではなく、自己資金とその後複数の事業所さんと家賃シェアを予定したいと思います。少しずつ目処を立てています。また収益事業をしないといけない。当面の目標は￥1万/1日の収益を上げる事業をすること。もちろんそれ以上を目指そうと思いますが、事業ならなんでもいいということでは、もちろんないわけです。

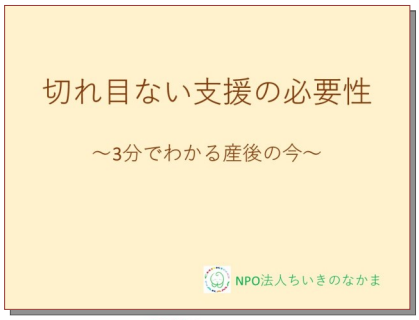
先に2回の失敗と言いましたが、維持できなかったこと以外は、宅老所、ウドハウスで体験したことは、今の活動のベースとしてとても貴重な実践でした。人と人が出会い、支え合う場所のあたたかさは、今の時代にも大事なことです。ぜひ一緒に活動してくださる方、たくさんのアイディアを求めています。

ファミリーサポートセンター事業上半期の報告

まだ分析はできていませんが、平成29年度10月までの実績です。全国どこも提供会員が増えないことで苦戦していますが、佐世保は提供会員が若干増。

ファミサポ・ちいきのなかまそれぞれの活動に参加してくださった方々が一歩踏み出してくださったという手応えは感じます。

ちいきのなかまでは、産前産後からの切れめない支援の必要性を伝えようと動画を作成しました。FBにアップしたところ、すでに1000回以上再生していただきました。顔と顔を合わせるコミュニケーションとSNSを活用しての発信と、さまざまな世代、多様な人たちに向けて地道にお伝えしていこうと思います。



まもなくYouTubeにもアップしようと考えています

平成29年10月31日現在

依頼会員	2106
提供会員	217
両方会員	75
合計	2459

依頼内容	合計
保育施設の保育開始時や終了後の子どもの預かり	64
保育施設までの送迎	83
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	10
学校の放課後の子どもの預かり	6
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	105
買い物等外出の際の子どもの預かり	90
産前産後のサポート	1
専業主婦の育児サポート	192
学習会参加時のサポート	42
保護者等の病気・急用の場合の援助	49
子どもの病気の時の援助	7
保護者等の求職活動、臨時的就労の場合の援助	153
合　　計	802
新規利用者数	59

●これからベントや講座の予定●

よろしければ予定に書き加えていただければ幸い。
イベントには有料・無料、託児の有無などあります。
事前にお問い合わせください。

イベント名	日時	会場	内容
ぽちぽちヨガ教室	11月13日・27日（月） 14:00～15:00	ボランティア研修室	定期開催 参加費￥500 会員外￥800
ファミサポ交流会	11月1日（水）	清水地区公民館	親子リトミック （ドルチェ音楽教室）
お産体験をシェア	11月9日･16日 22日	人数により変更あり	託児付き・お産体験を当事者が語る
おもちゃ図書館	11月28日 （火） 10:00～12:00	ファミサポ事務所	定期開催 参加費無料

後　記

SOSが出しづらい時代。孤立化が本当に深刻に社会に蔓延して、個々人を蝕んでいる、そんなことを日々感じます。電話でのご相談、20代の方からの電話も増加傾向。気になるのは相談への抵抗感なのか、戸惑いなのか、受け身な姿勢や簡単な妥協。人と話すのがつらいんだろうな～、と感じながら、どうにか会話をつなげています。人とつながる以前に、会話が苦手な人も多いのかもしれません。
今月のイラスト「こ～んなかんじ」のように、人見知りにめげずに子どもとともに社会に出ていくことは、とても大事な気がします。

NPO法人ちいきのなかま

入会・会員（正・賛助）会員継続のご案内
正会員：総会議決権あり　入会金¥1,000　年会費￥6,000
賛助会員：総会議決権なし　年会費￥3,000
主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先　NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19
携帯　090-9498-3608
E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp
HP:http://chiikinonakama.boo.jp/